

雪を蹴散らし駆ける素牛、全国へー。

誕生間もない子牛を月齢9カ月前後まで育て、全国に出荷するノベルズグループの育成事業。上土幌の延与牧場をはじめとする3牧場を中心に、年間約1万4,000頭を出荷しています。

和牛・交雑種の育成事業

地域共生シリーズ⑤



延与牧場の素牛出荷作業、黒毛和種の雌牛約80頭が牛舎から一斉に走り出た

夜も明け切らない冬の早朝、凍てつくような寒さに牧場の空気は、ピンと張り詰める。その刹那、「ヤアッ」というスタッフの掛け声が、牧場を包む静寂を打ち破る。牛舎の開け放たれた牛舎のゲートから、子牛たちがドドッと一斉に飛び出す。計量施設に駆け込むと、集荷前の体重計測が行われ、次々と市場行きトラックの荷台に乗せられる。月齢9カ月前後で、体重300キロ程度。誕生直後は40キロ前後で、ミルクで育ち、病弱なため体調管理に細心の注意が必要だが、この頃には、短い角も生え、肉牛らしい風格を帯びてくる。1頭ずつ競り落とされ、音更の十勝地区市場から、肉用牛を育てる全国の農家に送られる。

素牛の需給バランスを下支え

こうして取り引きされる子牛たちを素牛と呼ぶ。ノベルズグループが出荷する素牛は、年間1万4,000頭。受精卵移植によって誕生した黒毛和種や、道内の酪農家から買い受けた交雑種。近年、素牛市場は需給バランスの問題から取引価格が高騰しているが、素牛の安定的な供給関係の下支えが、育成事業の大きな使命のひとつ。

大きな可能性を秘めた素牛

まだ顔つきにあどけなさが残る素牛たちのトラックを見送りながら、延与牧場牧場長の舟井臣伍は話す。「経済動物ですから運命がある。悲しいですよ、やっぱり。でも、だから、育てている期間は、精一杯の世話をします」。管理や検査の分析データを積み上げ、実践と研究で培った育成ノウハウは、平均より高い取引価格にその評価が見て取れる。「次代を残す繁殖牛や世界で人気のブランド牛になる可能性を秘めた素牛。そんな、たくましい生命の輝きをはぐくむことが、僕たちの仕事だと考えています」

地域に生かされ、牛を育む。



NOBELS